

神戸大学大学院経営学研究科
教授

國部克彦様



大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程修了。博士（経営学）。
大阪市立大学助教授、神戸大学助教授を経て、2011年より神戸大
学大学院経営学研究科教授。ISO/TC207/WG8 議長、日本MFCA
フォーラム会長、環境経済・政策学会理事、環境経営学会理事等を務
める。主な著書に、「環境経営イノベーションの理論と実践」（中央経
済社、2010年）、「マテリアルフローコスト会計」（日本経済新聞出版
社、2008年）、「環境経営・会計」（有斐閣、2007年）等がある。

電力エネルギー大量消費企業としての社会的責任

NTT西日本グループは、冒頭の村尾社長の言葉にもあるように、「電
力エネルギーを大量に消費する企業として、自ら積極的に省エネ
ギーや環境問題に取り組んでいく」ことを目標に、「グリーンNTT西
日本戦略」を策定して積極的な活動を推進しています。特筆すべきこ
とは、NTT西日本グループは、事業と環境の関わりを正しく理解し
て体系的に環境保全活動を実施し、その情報を開示していること
です。これは、同社のマテリアルフローに関する分析が詳細で、環境保
全活動と結び付けて評価分析されていることに端的に示されていま
す。この点は、環境保全活動のみならず、環境情報開示の点からも、
高く評価されるべきです。

第三者意見を受けて

NTT西日本グループでは、市民の皆様やお客様と一緒に持続可能な社会の実現に貢献できるよう取り組んでまいりました。今後、さらに一歩踏み出すため、いただいたご意見について真摯に受け止め、次年度の報告書へ反映できるように取り組みたいと考えております。

一点目にご指摘いただいた「環境目標のKPI化」については、「環境グランドデザイン」として設定した2020年度の目標が一種のKPIと考えています。しかし、ご指摘の通り、単年度毎のより具体的な目標や次年度の計画等については掲載することができておりません。次年度の報告書にはできる限り活動計画を盛り込むように検討いたします。

二点目にご指摘いただいた「より多くのステークホルダーを巻き込んだ活動」については、「みどりいっぱいプロジェクト」を通して、地域の特性に合わせた生物多様性活動の推進等を軸に、地域の方々や協力しながら、環境を通じた交流を進めていくとともに、NTT西日本ホームページやSNS（Social Network Service）等のWebツールを通じた情報発信にも力を入れていき、社会とともに共通の価値を創造していきたいと考えています。

わたくしたちNTT西日本グループは、新たに策定した「グリーンNTT西日本戦略」を旗印として、あらゆる事業活動が環境に負荷を与えていることを認識し、わたくしたち自身が率先して、環境に配慮した持続可能な社会の実現へ貢献することが、社会的責任であると考えています。今後も皆様と一緒に、これまでも増して積極的に取り組んでまいります。

西日本電信電話株式会社
技術革新部 環境経営推進室

環境目標のKPI化を

NTT西日本グループは、「環境グランドデザイン」として、温暖化対策、紙資源削減、廃棄物削減の3つの活動について、2020年度を目標にして、全体の成果と個別の活動を詳しく説明しています。全体の結果だけでなく、個別の活動についても詳しく開示していることは評価できます。2020年度の目標はかなり挑戦的なものなので、来年度以降の活動計画等についても踏み込んで説明すると、さらに有効な情報開示になると思われます。また、最近ではヨーロッパを中心に環境関係の主要業績指標（KPI：Key Performance Indicator）を年次報告書で開示する実務（統合報告と呼ばれる）が進んでいるので、公共性の高い事業を行うNTT西日本グループも、環境指標を財務指標と並ぶ企業のKPIとして位置づけ、統合報告へ展開することを検討してもよい時期にきていると考えます。

ステークホルダーを巻き込んだ活動を

環境報告書では、社員の方や協力企業の方のコメントが掲載され、関係者の声を反映する努力をされていることがうかがえます。これは大変よいことなので、さらに関係者（ステークホルダー）の範囲を拡充して、意見交換の場等を設けられてはいかがでしょうか。NTT西日本グループは公共性の高い事業を行っておられ、しかもほぼすべての市民が何らかのユーザーでもあるので、環境や社会的責任の観点から幅広く意見交換し、市民に理解していただくとともに、社会とともに共通の価値を創造していくという姿勢が環境面でも非常に重要と考えます。今後も活動を一層発展していかれることを期待しています。